

『World Sailing 2019 Nations Cup Grand Final』

出場報告書



2019年5月1日

日本代表チーム

市川 航平

小島 広久

中山 遼平

森 俊介

公益財団法人 日本セーリング連盟 キールポート強化委員会

『World Sailing 2019 Nations Cup Grand Final』出場報告

文責・中山遼平

2019年4月9日(火)から14日(日)まで、米国・カリフォルニア州のセントフランシス・ヨットクラブで開催されたマッチレース国別対抗戦『WSネーションズカップ・グランドファイナル』に、月光チームが日本代表としてオープンクラスに出場しましたので、以下の通りご報告します。

記

1. 日程

- 4月 8日(月) サンフランシスコ国際空港到着
- 9日(火) 受付／体重測定、ブリーフィング、オープニングセレモニー
- 10日(水) ラウンドロビン
- 11日(木) ラウンドロビン
- 12日(金) ステージ 2
- 13日(土) ステージ 3、セミファイナル
- 14日(日) セミファイナル、ファイナル
アワードセレモニー
- 15日(月) サンフランシスコ国際空港出発

* レース期間中は毎朝のブリーフィングが行われた。

2. チームメンバー

日本チームは以下の4名(年齢、ポジション、所属)で構成された。

市川航平(28、スキッパー、月光)

小島広久(48、ピット、月光／新菱冷熱工業株式会社)

中山遼平(30、トリマー、月光／国立研究開発法人情報通信研究機構)

森俊介(25、バウマン、月光／日本航空株式会社)

3. 出場国(スキッパー、WS マッチレースランク)

【オープンクラス】9カ国9チーム

イタリア(Ettore Botticini、3位)

フランス(Maxime Mesnil、5位)

ロシア(Vladimir Lipavsky、14位)

USA(Pearson Potts、18位)

ニュージーランド(Nick Egnot-Johnson、25位)

オーストラリア (James Hodgson、28 位)

日本 (市川航平、190 位)

ブラジル (Henrique Haddad、N/A)

南アフリカ共和国 (David Rae、N/A)

【女子クラス】 8 カ国 10 チーム

フランス (Pauline Courtois、1 位)

スウェーデン (Johanna Bergqvist、2 位)

スウェーデン (Anna Östling、3 位)

フィンランド (Marinella Laaksonen、5 位)

USA (Nicole Breault、6 位)

オーストラリア (Clare Costanzo、9 位)

イギリス (Octavia Owen、15 位)

USA (Allie Blecher、6 位)

ブラジル (Juliana Seneff、N/A)

南アフリカ共和国 (Dominique Provoyeur、N/A)

4. 競技艇

J/22 を使用し、競技艇のセールはメインセール、ジブセール、スピナーカー各 1 枚によって構成された。レース艇は普段からヨットクラブ主催のマッチレースで使用され、専属のボートマネージャーにより整備、イコライズされていた。バウやスタンエッジにはクッションを取り付け、ジブセールのハックスはボタンおよび布製であるなど、艀装にもマッチレース向けの工夫が凝らされていた。

5. レース運営

- ・ レースコミッティーはヨットクラブメンバーを中心とし、サンフランシスコ湾口の強い潮流にも関わらず、競技性の高いレースがテンポ良く実施された。WS からは Michael O'connar 氏が参加していた。アンパイアリングは、ナショナル・アンパイア 3 名以外は全員インターナショナル・アンパイアにより行われた。
- ・ フォーマットは、帆走指示書通り、ラウンドロビン(ステージ 1)、ラウンドロビン 6 位以降による敗者復活および順位決定戦(ステージ 2)、上位 6 チームによる総当り(ダブル)のステージ 3、セミファイナル、ファイナルが行われた。セミファイナル、ファイナルは 3 本先取(ベストオブ 5)、3 位決定戦は 2 本先取(ベストオブ 3)形式であった。
- ・ レースは 2 海面で同時進行し、運営は本部船 2 艇、マークボート 2 艇、選手の乗せ替え用のラバーボート 2 艇、アンパイアボート 8 艇の合計 14 艇で行われた。

6. レース海面、コース

レース海面は、ヨットクラブ沖合が本船航路のため、ヨットクラブのすぐ前の海面を使用し(クラブ建物から観戦可能な距離)、東西に 2 海面を取った。レースコースは、基本的にソーセージコース 2 ラップ(スタート・上マーク・ゲート下マーク・上マーク・流し込みフィニッシュ)で、1 マッチの時間がおおよそ 25~35 分程度であった。潮流が非常に強いため、普段のマッチとは異なり、上マークでのスタボ回りやオフセット(ヒッチ)マークのオプションがあった(結果的に適用されることはなかった)。

7. 規則

RRS の付則 C を含む規則に基づき行われた。

クラスルールは適用されず、帆走指示書にて記載された競技艇取り扱い規則が適用された。

8. レース結果

最終成績は以下の通りであった。各ステージの成績は末尾に添付。

【オープンクラス】

優勝 フランス / 2位 ブラジル / 3位 オーストラリア / 4位 USA / 5位 ニュージーランド
6位 ロシア / 7位 イタリア / 8位 南アフリカ共和国 / 9位 日本

【女子クラス】

優勝 フランス / 2位 USA / 3位 スウェーデン / 4位 ブラジル / 5位 オーストラリア
6位 USA2 / 7位 フィンランド / 8位 スウェーデン2 / 9位 南アフリカ共和国 / 10位 イギリス

9. 参加費用

大会エントリー費 750USドル(セントフランシス・ヨットクラブからの補助 250USドルを除く)を事前に、ダメージデポジット 1500USドル(ノーケースの場合は返金)を現地受付時にクレジットカード決済した。エントリー費には宿泊(会場から車で 20 分程のヨットクラブメンバーの家に滞在)、セレモニー参加費が含まれた。

10. レース内容

レース海面の特徴として、ゴールドゲートブリッジ内側のサンフランシスコ湾口付近にあり潮流が非常に強く(干満の間で転流)、晴天では気温の上昇とともに太平洋からシーブリーズが吹き込んだ。岸側は風の強弱以上に潮流が弱いことによるアドバンテージがあり、左海面が顕著に有利となるため、ほぼ全レースでスタートから上マークまで(相手に対して)左側をプロテクトすることが重要となった。

日本チームは初日及び 2 日目の総当りラウンドロビンで 1 勝 7 敗と大きく負け越してしまった。15 ノット程度まで風速が増すなか、スタートでリードしたレースでも、クローズホールドのスピードにアドバンテージがなく、上マークまでリードを保つことができないケースが多かった。この要因として、他のチームより 30-50kg 程度軽量であったこと、メインリマーがいないことで重心が前掛かりとなりタックロスが大きかったことが考えられる。また、上位チームと比べると、アクションの精度と速度が劣り、心理的余裕に欠けたこともあり、特に序盤戦では潮流と風による有利サイドの見極めが遅れていた。南アフリカ戦はスタートからリードをキープして 1 勝を挙げることができた。

ステージ 2 の敗者復活戦では、ラウンドロビン 6 位のイタリアと対戦し(ベストオブ 3)、10 ノット程度の軽風のなか、1 マッチ目は潮流の読み間違いからセパレートし大きく離されてしまった。2 マッチ目はスタードからリードし、有利サイドをプロテクトできた。3 マッチ目は 2 上レグで相手をカバーしていたが、潮流が弱まり風速が上がるなか、痛恨のレイラインオーバーで上突破されて 2 敗目を喫してしまった。この結果、日本チームはステージ 2 で敗退となった。

南アフリカとの順位決定戦では(ベストオブ 3)、1 マッチ目はスタートでアウトマークの外に相手を追い出し、リードを保つことができた。2 マッチ目はタッキングマッチを経てフィニッシュ直前まで 4-5 艇身リードしていたが、ペナルティー解消の動作が遅れ相手に追い抜かれた。3 マッチ目は 2 上レグまで接戦だったがクローズホールドで走り負け上マークで先行され、2 敗目を喫してしまった。この結果、日本チームは最下位 9 位となることが決まった。

セミファイナルは、ステージ 3 を突破したフランス-USA、ブラジル-オーストラリアのペアリングで行われ、フランスとブラジルがそれぞれ実力で相手を退けてファイナルに進出した。ファイナルでは 20 ノットオーバーの強風でほぼ互角の実力だったと思うが、フランスの方がアクションやタック後のスピードで若干優り 3 勝 1 敗で優勝を決めた。

11. その他

〔今後の課題〕

本大会は日本代表として不甲斐ない結果に終わったが、滅多に経験することができないグレード1大会で、(上述のように潮流が特殊なレース海面ではあったものの)トップランカーから学ぶべき点が数多くあった。①J/22とはいえ中風以上で自由自在に操船する上で、体格やパワーの強化、増量は欠かせないことを再認識した。マッチレースではひとつひとつのアクションの小さな差が積み重ねとして勝敗に直結している。②上位チームは序盤から潮の流れや位置による違いを正確に把握していたように感じた。私達も潮流に注意してはいたが、レース展開に的確に組み込めず負けにつながったレースもあった。今後はマッチレースに留まらない幅広いセーリングの経験を積み、思考のオプションを増やす必要があるだろう。③ケースの理解とメンバー間での共有が不足していた。マッチレースでは即座の判断や動作が勝負を分けるため、クルー全員が状況を理解して、ボートの次の動きを予測し、素早く整然とアクションする必要がある。そのためには、レースメンバーでレース経験と個々のケースでの動きの良し悪しを共有することが重要だろう。④初日、こちらのミスから負けを重ねてしまったことは、本大会の結果を左右した。上位チームはより多くのレガッタをこなしていることもあるが、序盤から素早く適切に思考と動作をこなせるように順応性を高めていかないといけない。

〔各国のチーム状況〕

優勝のフランスチームや準優勝のブラジルチームはオープン及び女子クラスの両方に参加し、お互いに情報交換や練習のパートナーとして機能していた。特にフランスチームは共通のコーチが帯同し、協会や代表チーム単位のプロジェクトの下、ユース世代から数年を掛けて継続的に強化している。3位のオーストラリアチームは前年の豪州選手権を制し、シドニーの名門ヨットクラブCruising Yacht Club Australiaから支援を受け参加していた。スキッパーはまだ19歳だが、実力さえあれば、ユース世代から国際的なマッチレースに容易に参加できる環境が整っていることは日本との差を感じた。4位のUSAチームは米国東海岸をベースとしてモノハル艇によるマッチレースを中心に参加している。USAチームは昨年NYYCチームレースに参戦した男女メンバーがおり、ヨットクラブの代表としてサポートを受けながらセーリング活動を継続している。

〔マッチレースの展望と協会に期待すること〕

ワールドマッチレーシングツアー(WMRT)やアメリカズカップがフォイリングボートによるマッチレースへと移行するなか、ワールドセーリングが主催するネーションズカップはモノハル艇を用いたマッチレースとして存在感を増しているように感じた。実際に今大会は(WMRTを含む)マッチレースランク上位の選手が多数出場し、米国西海岸を代表するヨットクラブのひとつであるセントフランシス・ヨットクラブが総力を挙げて大会を運営していた。モノハル艇によるマッチレースはWMRTへの登竜門として重要であるとともに、欧米のヨットクラブをベースとするセーラー層にはトレーニングや見応えのあるイベントとして根強く支持されているようである。例えば、オープンクラスの米国代表チーム名は“Guadians of the Monohull”であり、モノハル艇によるマッチレースを残していくため活動している。また、2018年にはマッチレース・スーパーリーグといったモノハル艇による国際的なレースツアーも設立された。以上をまとめると、フォイリングとモノハル艇の間でマッチレースに携わる国際組織、アンパイア、選手が二分されている面もあるようだが、これらは互いに延長線上にあり相補的に今後も発展していくと考えられる。

ネーションズカップやスーパーリーグでの日本チームの躍進に向けて、まずは日本国内のマッチレース選手とチームが増え、競争性の高いレースが日頃から行われることは必須だろう。マッチレースのトレーニングは確立されたものがあるので、セーリング・クリニックなどを通して情報を広めていくことも重要である。マッチレースはレーサーとしての基礎が問われ、勝敗という明確な結果が出る、そしてランキングを通して世界につながるということも魅力だろう。やはりグレード3の日本選手権(さらに言うとグレード2の国際大会)の開催に向けて、国内の選手と運営組織を育てていく必要がある。欧米におけるヨットクラブのように、マッチレース協会を中心として各地のセーラーが情報を共有し、お互いに切磋琢磨した結果として自分達の代表チームをネーションズカップのような国際大会に送り出す、という素地ができればベストだろう。

その試金石として大学対抗&U25マッチは各地のセーラーの間でネットワークを形成し、将来の代表候補や運営組織の中心となり得る人材を排出している。こうした流れを生かすことで、ハイレベルなレースを国内でも数多く実施していくことができるのではないかと。次回のネーションズカップは2年後に開催予定である。

〔日本代表としての参戦〕

私達が日本代表として本大会に出場するにあたり、日本ヨットマッチレース協会よりご推薦頂くとともに、日本セーリング連盟よりエントリー費用及び参加要件である保険費用のご支援を頂いたことに選手一同感謝致します。また本大会に向けて、多くの方に練習にご協力頂きました。しかし結果として、惨敗に終わり、応援頂いた皆様には申し訳御座いませんでした。この悔しい気持ちをバネに今回の経験を糧として、今後も国際大会へのチャレンジを続けて行く所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

12. 遠征収支

2019.4.8-17

*1USD = 115円換算

収入

項目	単価	個数	金額	備考
個人負担	237,405	4	949,620	
JSAFご支援	159,095	1	159,095	エントリー費、保険、現地移動実費
デポジット返金	172,500	1	172,500	ノーケースのため全額返金
合計			1,281,215	

支出

項目	単価	個数	金額	備考
エントリー	86,250	1	86,250	750USD(チャーター料金等含む)
デポジット	172,500	1	172,500	1,500USD
航空券	161,740	4	646,960	
宿泊	17,500	1	17,500	最終日以外はヨットクラブメンバーの家に宿泊
現地移動費用	28,845	1	28,845	レンタカー及び給油代
食費	148,914	1	148,914	駐車代を含む
海外旅行保険	11,000	4	44,000	
国旗	1,360	1	1,360	大会側からのリクエストによる
ユニフォーム	30,000	4	120,000	
WiFiレンタル	14,886	1	14,886	
合計			1,281,215	

収支

0

ファイナル及び 3 位決定戦成績

Stage 5 and Stage 6 Results

DIVISION 1	Match 1	Match 2	Match 3	Match 4	Match 5
Final					
USA Breault	0	0	0		
FRA Courtois	1	1	1		
Petite Final					
SWE Östling	1	1			
BRA Senfft	0	0			

FRA and USA place 1st and 2nd respectively

SWE and BRA place 3rd and 4th respectively

DIVISION 2	Match 1	Match 2	Match 3	Match 4	Match 5
Final					
FRA Mesnil	1	1	0	1	
BRA Haddad	0	0	1	0	
Petite Final					
USA Potts	0	0			
AUS Hodgson	1	1			

FRA and BRA place 1st and 2nd respectively

AUS and USA place 3rd and 4th respectively

セミファイナル成績

Stage 4
Semi Finals

DIVISION 1	Match 1	Match 2	Match 3	Match 4	Match 5
USA Breault	1	0	1	1	
BRA Senfft	0	1	0	0	
SWE Östling	0	0	1	0	
FRA Courtois	1	1	0	1	

Penalty	Score
	3
	1
	0
	1
	3

Women's

SWE and BRA will compete in the Petite Finals

USA and FRA will compete in the Finals

DIVISION 2	Match 1	Match 2	Match 3	Match 4	Match 5
FRA Mesnil	0	0	1	1	1
USA Potts	1	1	0	0	0
BRA Haddad	0	1	0	1	1
AUS Hodgson	1	0	1	0	0

Penalty	Score
	3
	2
	0
	3
-0.75	1.25

*RRS 14

Open

AUS and USA will compete in the Petite Finals

FRA and BRA will compete in the Finals

ステージ 3 成績

STAGE 3 RESULTS
Quarter Finals

DIVISION 1	Breault	Courtois	Ostling	Blecher	Senfft	Costanzo
USA Breault		1	1	2	2	2
FRA Courtois	1		1	2	1	1
SWE Ostling	1	1		2	1	2
USA Blecher	0	0	0		0	1
BRA Senfft	0	1	1	2		1
AUS Costanzo	0	1	0	1	1	

Stage 3 Wins	Ranking	Advances
8	1	***
6	3	***
7	2	***
1	6	
5	4	***
3	5	

DIVISION 2	Mesnil	Haddad	Egnot-Johnson	Hodgson	Potts	Lipavsky
FRA Mesnil		0	1	2	2	2
BRA Haddad	2		2	0	2	0
NZL Egnot-Johnson	1	0		0	1	2
AUS Hodgson	0	2	2		0	1
USA Potts	0	0	1	2		2
RUS Lipavsky	0	2	0	1	0	

Stage 3 Wins	Ranking	Advances
7	1	***
6	2	***
4	5	
5	4	***
5	3	***
3	6	

Open
FRA, BRA, USA, AUS Progress to semi finals
NZL and RUS place 5th and 6th respectively

Women
USA (Breault), SWE, FRA, BRA progress to Semi Finals
AUS and USA (Blecher) place 5th and 6th respectively

ステージ 2 成績

STAGE 2 REPECHAGE RESULTS

DIVISION 1	Costanzo	Provoyeur	Bergqvist	Laaksonen	Owen	Total Wins
Costanzo		1	1	0	1	3
Provoyeur	0		0	0	1	1
Bergqvist	0	1		1	1	3
Laaksonen	1	1	0		1	3
Owen	0	0	0	0		0

Stage 2A	DIVISION 2	Match 1	Match 2	Match 3	Total Wins
	Botticini	1	0	1	2
	Ichikawa	0	1	0	1
	Rae	0	0		0
	Egnot-Johnson	1	1		2

Stage 2B	DIVISION 2	Match 1	Match 2	Match 3	Total Wins
	Botticini	0	1	0	1
	Egnot-Johnson	1	0	1	2
	Ichikawa	1	0	0	1
	Rae	0	1	1	2

AUS Costanzo and NZL Egnot-Johnson progress to Stage 3 in the Women's and Open division respectively

ステージ 1 成績

STAGE 1 RESULTS
 UPDATED 4/11/19 1845

DIVISION 1	Bergqvist	Blecher	Breault	Costanzo	Courtois	Laaksonen	Östling	Owen	Provoyeur	Senfft	Total Wins	Rank After Tiebreak
Bergqvist	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3	8
Blecher	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	5	4
Breault	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9	1
Costanzo	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4	6
Courtois	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	8	2
Laaksonen	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	9
Östling	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	6	3
Owen	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	10
Provoyeur	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	7
Senfft	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	5	5

DIVISION 2	Botticini	Egnot-Johnson	Haddad	Hodgson	Ichikawa	Lipavsky	Mesnil	Potts	Rae	Total Wins	Rank After Tiebreak
Botticini	0	1	0	0	1	0	1	0	1	4	6
Egnot-Johnson	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	8
Haddad	1	1	0	1	1	0	0	1	1	6	2
Hodgson	1	1	0	0	1	1	0	1	0	5	3
Ichikawa	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9
Lipavsky	1	0	1	0	1	0	0	0	1	4	5
Mesnil	0	1	1	1	1	1	0	1	1	7	1
Potts	1	1	0	0	1	1	0	0	1	5	4
Rae	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	7



レース海面(奥にはゴールデンゲートブリッジが見える)



レース海面(セントフランシス・ヨットクラブから一望できる)



優勝のフランスチーム(オープン及び女子クラスの選手とコーチ)



選手全員での集合写真